

Windows Server® 2008 R2

Hyper-V 2.0 注意・制限事項集

3.0 版 2017/8/28

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して、日本電気株式会社またはその関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、日本電気株式会社およびその関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示または黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。

Microsoft、Windows、Windows Server、Active Directory および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

改版履歴

Ver.	日付	履歴
初版	2011/10/3	—
1.1	2012/5/16	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.2	2012/6/21	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.3	2012/12/10	3.5 に Windows Server 2012 の情報を追加
1.4	2013/1/15	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.5	2013/5/21	2.1/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.6	2013/9/13	2.8 にホスト OS が起動できない事象の情報を追加 2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.7	2013/11/6	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.8	2014/1/24	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
1.9	2014/1/28	2.3 の事象の修正プログラムを変更
2.0	2014/7/10	2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.1	2014/8/4	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.2	2014/8/18	2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.3	2014/9/29	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.4	2014/10/28	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.5	2015/1/26	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.6	2015/6/26	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.7	2016/4/26	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.8	2016/6/10	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
2.9	2016/11/25	2.2/2.3 の事象に対象モデルの情報を追加
3.0	2017/8/28	3.2 に ft サーバに関する情報を追加

目次

1. はじめに	- 3 -
2. 設計フェーズでの注意・制限事項	- 4 -
2.1 Stop Error 事象について	- 4 -
2.2 仮想マシンが起動できない事象について	- 5 -
2.3 パフォーマンスが低下する事象について	- 6 -
2.4 Intel® PROSet を使用する際の注意事項	- 9 -
2.5 ゲスト OS 上でレガシーネットワークアダプタを使用する際の制限事項	- 9 -
2.6 ゲスト OS 上で SCSI コントローラを使用する際の制限事項	- 9 -
2.7 仮想マシン間でクラスタを構成する場合の注意事項	- 9 -
2.8 ホスト OS が起動できない事象について	- 9 -
3. 構築フェーズでの注意・制限事項	- 10 -
3.1 出力される可能性のあるイベントログについて	- 10 -
3.2 ゲスト OS 上で物理 CD/DVD ドライブを使用する際の注意事項	- 10 -
3.3 Windows 7/Windows Server 2008 R2 の Hyper-V マネージャを使用する際の注意事項	- 10 -
3.4 ゲスト OS のインストール媒体について	- 11 -
3.5 ゲスト OS のライセンス認証について	- 11 -
4. 運用フェーズでの注意・制限事項	- 12 -
4.1 ゲスト OS に Windows 2000 Server SP4 を使用する際の注意事項	- 12 -
4.2 仮想マシンをエクスポートする際の注意事項	- 12 -
4.3 「クリップボードからテキストを入力」を使用する際の注意事項	- 12 -

1. はじめに

本書では、Hyper-V 2.0 環境の設計・構築・運用の各フェーズにおける注意・制限事項をまとめています。
Express5800 シリーズのサーバで Hyper-V 2.0 をご利用になる際には、本書の内容を事前にご確認ください。

2. 設計フェーズでの注意・制限事項

2.1 Stop Error 事象について

Hyper-V 2.0 使用時の Stop Error 事象について、Microsoft 社より以下のナレッジ情報が公開されています。

以下の 2 つの問題は、[Hyper-V 2.0 用の更新プログラム \(KB2264080\)](http://support.microsoft.com/kb/2264080/ja)¹で修正されます。

更新プログラムの詳細は、[Microsoft 社公開のナレッジ情報](http://support.microsoft.com/kb/975530/ja)²をご参照ください。

本更新プログラムは Windows Server 2008 R2 の SP1 に含まれています。ホスト OS に SP1 を適用される場合には、本更新プログラムを適用する必要はありません。

1. インテル® Xeon® プロセッサ 5500 番台を搭載したサーバで Stop Error (0x101)が発生する可能性がある ([KB975530](http://support.microsoft.com/kb/975530/ja))³

本事象は、レジストリの修正により、OS 上の C3 ステートを無効化することによっても回避することができます。

2. 特定のアーキテクチャを持つインテル プロセッサを搭載したサーバで Stop Error (0x0000001a)が発生する可能性がある ([KB981791](http://support.microsoft.com/kb/981791/ja))⁴

Express5800 シリーズでは、以下のモデルでこの事象が発生する可能性があります (2016/11/25 時点)。

それぞれのモデルが搭載している CPU についての詳細は、[スペック詳細・アーキテクチャ図](#)⁵、もしくは、[サポート情報 \[PC サーバ\]](#)⁶をご覧ください。

モデル名	対象モデル
R110b-1	・ インテル® Pentium® プロセッサ G6950 を搭載したモデル
R110c-1	・ インテル® Pentium® プロセッサ G6950 を搭載したモデル
T110b	・ インテル® Pentium® プロセッサ G6950 を搭載したモデル
T110c	・ インテル® Pentium® プロセッサ G6950 を搭載したモデル
GT110b	・ インテル® Pentium® プロセッサ G6950 を搭載したモデル ・ インテル® Celeron® プロセッサ G1101 を搭載したモデル
GT110b-S	・ 全モデル
E110b-1	・ 全モデル
E110c-1	・ 全モデル
B120b	・ 全モデル
B120b-d	・ 全モデル
B120b-h	・ 全モデル
B120b-Lw	・ 全モデル
R120b-1	・ インテル® Xeon® プロセッサ 5600 番台を搭載したモデル
R120b-2	・ インテル® Xeon® プロセッサ 5600 番台を搭載したモデル
T120b-M	・ インテル® Xeon® プロセッサ 5600 番台を搭載したモデル
T120b-E	・ インテル® Xeon® プロセッサ 5600 番台を搭載したモデル
E120b-M	・ 全モデル
E120b-1	・ 全モデル
R320b-M4	・ 全モデル
A1040a	・ 全モデル
A1080a-S	・ インテル® Xeon® プロセッサ E7-8800/4800 製品ファミリーを搭載したモデル

¹ <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=892d0973-c445-4a08-a52a-30978bbd46f1>

² <http://support.microsoft.com/kb/2264080/ja>

³ <http://support.microsoft.com/kb/975530/ja>

⁴ <http://support.microsoft.com/kb/981791/ja>

⁵ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/category/spec.html>

⁶ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>

2.2 仮想マシンが起動できない事象について

Advanced Vector Extensions (AVX) 機能をサポートするインテル プロセッサを搭載したサーバで仮想マシンを起動できない事象について、Microsoft 社よりナレッジ情報 (KB2517374)⁷が公開されています。

Microsoft 社が公開している修正用の Hotfix もしくは Windows Server 2008 R2 の SP1 により修正されます。

修正用の Hotfix を適用した場合にはゲスト OS 上で AVX 機能を使用できなくなりますが、SP1 を適用した場合には使用することができますので、SP1 を適用することを推奨します。

本事象の詳細は、[Microsoft 社公開のナレッジ情報](#)⁸をご参照ください。

Express5800 シリーズでは、以下のモデルでこの事象が発生します (2016/11/25 時点)。

それぞれのモデルが搭載している CPU についての詳細は、[スペック詳細・アーキテクチャ図](#)⁹、もしくは、[サポート情報 \[PC サーバ\]](#)¹⁰をご覧ください。

下記のモデルをご使用になる場合には、修正用の Hotfix もしくは Windows Server 2008 R2 の SP1 を適用してください。

モデル名	対象モデル
R110d-1E	・全モデル
R110e-1E	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v2 製品ファミリーを搭載したモデル
R110f-1E	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル
R110g-1E	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル
R110h-1	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v5 製品ファミリーを搭載したモデル
E110d-1	・全モデル
GT110d	・全モデル
GT110e	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v2 製品ファミリーを搭載したモデル
GT110f	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-4330 プロセッサを搭載したモデル
GT110d-S	・全モデル
GT110e-S	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v2 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-3240 プロセッサを搭載したモデル
GT110f-S	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-4330 プロセッサを搭載したモデル
GT110g	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル
GT110g-S	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-4350 プロセッサを搭載したモデル
GT110h	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v5 製品ファミリーを搭載したモデル
R110d-1M	・全モデル
R110e-1M	・全モデル
T110d	・全モデル
T120d	・全モデル
T110e-M	・全モデル
T120e	・全モデル
T110f-E	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-4330 プロセッサを搭載したモデル
T110f-S	・全モデル

⁷ <http://support.microsoft.com/kb/2517374/ja>

⁸ <http://support.microsoft.com/kb/2517374/ja>

⁹ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/category/spec.html>

¹⁰ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>

T120f	・全モデル
T110g-E	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル ・インテル® Core™ i3-4350 プロセッサを搭載したモデル
T110g-S	・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v3 製品ファミリーを搭載したモデル
T120g	・全モデル
T110h	・インテル® Core™ i3-6300 プロセッサを搭載したモデル ・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v5 製品ファミリーを搭載したモデル
T110h-S	・インテル® Core™ i3-6300 プロセッサを搭載したモデル ・インテル® Xeon® プロセッサ E3-1200 v5 製品ファミリーを搭載したモデル
R120d-1M	・全モデル
R120d-2M	・全モデル
R120d-1E	・全モデル
R120d-2E	・全モデル
R120e-1M	・全モデル
R120e-2M	・全モデル
R120e-1E	・全モデル
R120e-2E	・全モデル
R120f-1M	・全モデル
R120f-2M	・全モデル
R120f-1E	・全モデル
R120f-2E	・全モデル
R120g-1M	・全モデル
R120g-2M	・全モデル
R120g-1E	・全モデル
R120g-2E	・全モデル
B110d	・全モデル
B120d	・全モデル
B120d-h	・全モデル
B120e	・全モデル
B120e-h	・全モデル
B120f	・全モデル
B120f-h	・全モデル
E120d-1	・全モデル
E120d-M	・全モデル
E120e-M	・全モデル
E120f-M	・全モデル
E120g-M	・全モデル

2.3 パフォーマンスが低下する事象について

特定のアーキテクチャを持つインテル プロセッサおよび大容量のメモリを搭載したサーバでゲスト OS のパフォーマンスが低下する事象について、Microsoft 社よりナレッジ情報が公開されています。

Microsoft 社が公開している[修正プログラム \(KB2740390\)](http://support.microsoft.com/kb/2740390)¹¹により修正されます。

本事象の詳細は、[Microsoft 社公開のナレッジ情報 \(KB2517329\)](http://support.microsoft.com/kb/2517329)¹²をご参照ください。

¹¹ <http://support.microsoft.com/kb/2740390/ja>

¹² <http://support.microsoft.com/kb/2517329/ja>

Express5800 シリーズでは、以下のモデルでこの事象が発生する可能性があります(2016/11/25 時点)。
 それぞれのモデルが搭載している CPU についての詳細は、[スペック詳細・アーキテクチャ](#)¹³、もしくは、[サポート情報 \[PC サーバ\]](#)¹⁴をご覧ください。

モデル名	対象モデル
R110d-1E	・ 全モデル
R110e-1E	・ 全モデル
R110f-1E	・ 全モデル
R110g-1E	・ 全モデル
R110h-1	・ 全モデル
E110d-1	・ 全モデル
GT110d	・ 全モデル
GT110e	・ 全モデル
GT110f	・ 全モデル
GT110d-S	・ 全モデル
GT110e-S	・ 全モデル
GT110f-S	・ 全モデル
GT110g	・ 全モデル
GT110g-S	・ 全モデル
GT110h	・ 全モデル
R110d-1M	・ 全モデル
R110e-1M	・ 全モデル
T110d	・ 全モデル
T120d	・ 全モデル
T110e-M	・ 全モデル
T120e	・ 全モデル
T110f-E	・ 全モデル
T110f-S	・ 全モデル
T120f	・ 全モデル
T110g-E	・ 全モデル
T110g-S	・ 全モデル
T120g	・ 全モデル
T110h	・ 全モデル
T110h-S	・ 全モデル
B120b	・ 全モデル
B120b-d	・ 全モデル
B120b-h	・ 全モデル
B120b-Lw	・ 全モデル
B110d	・ 全モデル
B120d	・ 全モデル
B120d-h	・ 全モデル

¹³ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/category/spec.html>

¹⁴ <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>

B120e	・全モデル
B120e-h	・全モデル
B120f	・全モデル
B120f-h	・全モデル
R120b-1	・インテル® Xeon® プロセッサー 5600 番台を搭載したモデル
R120b-2	・インテル® Xeon® プロセッサー 5600 番台を搭載したモデル
T120b-M	・インテル® Xeon® プロセッサー 5600 番台を搭載したモデル
T120b-E	・インテル® Xeon® プロセッサー 5600 番台を搭載したモデル
E120b-1	・全モデル
E120b-M	・全モデル
E120d-1	・全モデル
E120d-M	・全モデル
E120e-M	・全モデル
E120f-M	・全モデル
E120g-M	・全モデル
R120d-1M	・全モデル
R120d-2M	・全モデル
R120d-1E	・全モデル
R120d-2E	・全モデル
R120e-1M	・全モデル
R120e-2M	・全モデル
R120e-1E	・全モデル
R120e-2E	・全モデル
R120f-1M	・全モデル
R120f-2M	・全モデル
R120f-1E	・全モデル
R120f-2E	・全モデル
R120g-1M	・全モデル
R120g-2M	・全モデル
R120g-1E	・全モデル
R120g-2E	・全モデル
R140e-4	・全モデル
R320b-M4	・全モデル
R320c-E4	・全モデル
R320c-M4	・全モデル
R320d-M4	・全モデル
A1040a	・全モデル
A1080a-S	・インテル® Xeon® プロセッサー E7-8800/4800 製品ファミリーを搭載したモデル
A1080a-D	・インテル® Xeon® プロセッサー E7-8800/4800 製品ファミリーを搭載したモデル
A1080a-E	・インテル® Xeon® プロセッサー E7-8800 製品ファミリーを搭載したモデル

2.4 Intel® PROSet を使用する際の注意事項

Hyper-V 2.0 環境で Intel PROSet によるチームング機能を使用する際には、[Hyper-V における Intel LAN のチームング機能のサポートについて](#)¹⁵に掲載されているサポート対象のモデル/NIC、注意事項をご確認ください。

チームングを構成可能な NIC の組み合わせについては、サポート対象モデルの[システム構成ガイド](#)¹⁶をご確認ください。

2.5 ゲスト OS 上でレガシーネットワークアダプタを使用する際の制限事項

1. レガシーネットワークアダプタを使用できないゲスト OS について

Hyper-V 2.0 環境では、以下のゲスト OS 上でレガシーネットワークアダプタは使用できません。

- Windows Server 2003 (x64) SP2
- Windows Server 2003 R2 (x64) SP2
- Windows XP (x64) SP2

2. 「MAC アドレスのスプーフィングを有効にする」設定について [\(KB978525\)](#)¹⁷

レガシーネットワークアダプタを使用する場合、「MAC アドレスのスプーフィングを有効にする」の設定を無効にしている状態（デフォルト）でも、ゲスト OS 上から本アダプタの MAC アドレスが変更できてしまいます。MAC アドレスを変更した場合、本アダプタに関係するネットワークの通信が行えなくなります。

この設定を無効にする場合には、ゲスト OS 上から本アダプタの MAC アドレスを変更しないでください。

2.6 ゲスト OS 上で SCSI コントローラを使用する際の制限事項

Hyper-V 2.0 環境では、以下のゲスト OS 上で SCSI コントローラは使用できません。

- Windows 2000 SP4
- Windows XP (x86) SP2/SP3

2.7 仮想マシン間でクラスタを構成する場合の注意事項

Windows Server Failover Cluster を使用して、仮想マシン間でクラスタを構成する場合、共有ディスクは iSCSI 接続されたストレージのみサポートします (Microsoft 社の仕様)。

より実績の豊富な接続形態 (ファイバーチャネルなど) によるクラスタ構成をご希望の場合には [CLUSTERPRO](#)¹⁸をご使用ください。

2.8 ホスト OS が起動できない事象について

512GB を超えるメモリを搭載したサーバに Hyper-V をインストールした際にホスト OS が起動できなくなる事象について、Microsoft 社よりナレッジ情報 ([KB2133637](#))¹⁹ が公開されています。

本事象は Microsoft 社が公開している修正用の Hotfix もしくは Windows Server 2008 R2 の SP1 により修正されます。

詳細は [Microsoft 社公開のナレッジ情報](#)²⁰をご参照ください。

512GB を超えるメモリを搭載したサーバで Hyper-V を使用する場合には、修正用の Hotfix もしくは Windows Server 2008 R2 の SP1 を事前に適用してください。

Hyper-V インストール後に本事象が発生した場合には、搭載メモリサイズを 512GB 以下に変更してホスト OS を起動し、修正用の Hotfix もしくは Windows Server 2008 R2 の SP1 を適用してください。

¹⁵ <http://support.express.nec.co.jp/os/w2008r2/hyper-v-lan.html>

¹⁶ <http://www.nec.co.jp/products/express/systemguide/100guide.shtml>

¹⁷ <http://support.microsoft.com/kb/978525/ja>

¹⁸ <http://www.nec.co.jp/pfsoft/clusterpro/index.html>

¹⁹ <http://support.microsoft.com/kb/2133637/ja>

²⁰ <http://support.microsoft.com/kb/2133637/ja>

3. 構築フェーズでの注意・制限事項

3.1 出力される可能性のあるイベントログについて

Hyper-V 2.0 をご利用いただく際に、出力される可能性のあるエラー・警告レベルのイベントログにつきましては、以下をご参照ください。

 [Hyper-V 2.0 エラー・警告イベントログ](#)²¹

3.2 ゲスト OS 上で物理 CD/DVD ドライブを使用する際の注意事項

- ゲスト OS 上で、OS のインストールや Service Pack の適用、アプリケーションのインストールなどを行う際に、仮想マシンの CD/DVD ドライブに物理 CD/DVD ドライブを割り当てていた場合、物理ドライブの CD/DVD を入れ換えても、ゲスト OS 側で CD/DVD が入れ換えられたことを認識しない場合があります ([KB2005143](#))²²。
この場合、CD/DVD の入れ換え後に、仮想マシン設定で物理 CD/DVD ドライブの割り当てを一旦解除し、再度 仮想マシンに割り当ててください。
- ft サーバにおいて、ゲスト OS に物理 CD/DVD ドライブを割り当てたままにしないでください。割り当てた状態で PCI モジュールの切り離しが発生し、プライマリモジュールが切り替わった場合、ゲスト OS がストールする場合があります。

3.3 Windows 7/Windows Server 2008 R2 の Hyper-V マネージャを使用する際の注意事項

Windows 7/Windows Server 2008 R2 上にインストールした Hyper-V マネージャで仮想マシンを作成した場合、仮想マシンにデフォルトで SCSI コントローラが追加されます。

Hyper-V 2.0 には SCSI コントローラを使用する際に制限事項がありますので、それに該当する場合には仮想マシンの設定から SCSI コントローラを削除してください。

²¹ http://support.express.nec.co.jp/os/w2008r2/Hyper-V_2.0_notes.pdf

²² <http://support.microsoft.com/kb/2005143>

3.4 ゲスト OS のインストール媒体について

Express5800 で提供している OS 媒体 (バックアップ CD-ROM/DVD-ROM) のバージョン (ID) によっては、ゲスト OS のインストールに使用することができないものがあります。媒体レーベルに記載されている『ID』をご確認の上、ご利用下さい。

対象のゲスト OS	Edition	インストールできない 媒体の『ID』表記	インストールできる 媒体の『ID』表記
Windows Server 2003 R2 (x86)	Standard	–	ID : 243-110442-478-A ID : 243-110442-478-B
	Enterprise	–	ID : 243-110442-479-A ID : 243-110442-479-B
Windows Server 2003 R2 (x64)	Standard	–	ID : 243-110442-369-C ID : 243-110442-480-A ID : 243-110442-480-C
	Enterprise	–	ID : 243-110442-370-C ID : 243-110442-481-A ID : 243-110442-481-C
Windows Server 2003 (x86)	Standard	ID : 243-110442-100-A ID : 243-110442-100-C ID : 243-110442-442-A ID : 243-110442-442-B	–
	Enterprise	ID : 243-110442-101-A ID : 243-110442-101-C ID : 243-110442-443-A ID : 243-110442-443-B	–
Windows Server 2003 (x64)	Standard	ID : 243-110442-369-A	–
	Enterprise	ID : 243-110442-370-A	–

3.5 ゲスト OS のライセンス認証について

Express5800 で提供している OS 媒体 (バックアップ CD-ROM/DVD-ROM) で、ゲスト OS をインストールする際、一部の OS を除き、Windows のライセンス認証 (プロダクトキーの置換) が必要になります。下記の該当する OS の手順書を入手していただき、それに従い手続きを行ってください。

(注) 下記以外の OS 媒体 (バックアップ CD-ROM/DVD-ROM) は、ゲスト OS に使用することはできません。

Windows のライセンス認証が必要	Windows のライセンス認証が不要
Windows Server 2012 (x64) ²³ Windows Server 2008 R2 (x64) ²⁴ Windows Server 2008 (x86/x64) ²⁵	Windows Server 2003 R2 (x86/x64) Windows 2000

²³ http://support.express.nec.co.jp/os/w2008r2/doc/ProductKey_WS2012.pdf

²⁴ http://support.express.nec.co.jp/os/w2008r2/doc/ProductKey_WS2008R2.pdf

²⁵ http://support.express.nec.co.jp/os/w2008r2/doc/ProductKey_WS2008.pdf

4. 運用フェーズでの注意・制限事項

4.1 ゲスト OS に Windows 2000 Server SP4 を使用する際の注意事項

ゲスト OS として Windows 2000 Server SP4 を使用している場合、統合サービスを導入している状態で Windows Update を行うと、ブルースクリーンになることがあります ([KB976488](http://support.microsoft.com/kb/976488))²⁶。

ゲスト OS の Windows 2000 Server SP4 上での Windows Update は、統合サービスをインストールする前に行ってください。なお、統合サービスをインストールする前は、仮想環境上ではレガシーネットワークアダプタを使用する必要があります。

4.2 仮想マシンをエクスポートする際の注意事項

物理 CD/DVD ドライブを割り当てたまま仮想マシンをエクスポートすると、そのエクスポートデータをインポートしたときに、以下のようなエラーイベントが出力され、物理 CD/DVD ドライブの割り当て設定が解除されます（インポート自体は成功します）。

Microsoft Virtual CD/DVD Disk を正しくインポートできませんでした。エラー:無効なパラメータです。(0x80041008)

物理 CD/DVD ドライブを割り当てている仮想マシンをエクスポートする際には、事前に CD/DVD ドライブの割り当てを解除してください。

4.3 「クリップボードからテキストを入力」を使用する際の注意事項

ホスト OS の全角文字をコピーし、ゲスト OS のメニュー「クリップボード」-「クリップボードからテキストを入力」を選択して、ゲスト OS に貼り付けを行うと文字が不正になります ([KB967147](http://support.microsoft.com/kb/967147))²⁷。

現在、回避策はありませんので、「クリップボードからテキストを入力」を使用して、全角文字の貼り付けを行わないでください。

なお、Microsoft 社公開のナレッジ情報では Windows Server 2008 Hyper-V が対象となっていますが、Hyper-V 2.0 でも同様の問題があります。

²⁶ <http://support.microsoft.com/kb/976488>

²⁷ <http://support.microsoft.com/kb/967147>